

自然と都会の共存を
心地よく楽しむ

春夏秋冬、快適な家。

四季があり気温や湿度などの変化が多い日本の気候。

さらに南北に延びた地形は、地域ごとに気象や土地条件の差異をもたらす。

注文住宅だからこそ、住む場所の条件を考慮し、設計に生かすことで

一年を通じて快適に過ごすことができるはずだ。

今回はそんな条件を克服、またはうまく利用することで

春夏秋冬、快適に暮らす3軒を紹介する。

取材・文 オイコス（専門家取材）、佐々木明美<ark>（実例取材）
撮影 宇佐美智史 デザイン 藤田デザイン事務所

気候、風土、立地条件に合わせた家づくりが日々の心地よさをもたらす

古来より日本は自然と調和する家をつくってきた

北海道から沖縄まで日本の気候風土は地域や土地によって大きく異なる。四季を通じて快適な暮らしを送るには、その土地の特性や風土を読み込んで建てるのが建売の基本だ。建築家の黒木さんは話す。

「高温多湿で四季の移り変わりがはっきりしている日本では、自然条件とくに共存するかが、古来の家づくりの一つのテーマでした。庭や軒の構造、大きな窓や障子の設置、直射日光を遮り、雨や雪の間に湿度を調整して断熱性能を確保しつつ、茶飲み話で「ムネニテイを涼めたのです」

近年でもこうした自然との調和が重要なテーマであることに変わりはない。人口が集中した都市型住宅なら、プライバシーの確保や広く住まう工夫が必要となる。開放的な田園住宅では、より風の向きや土地条件に合う住まいづくりが求められるだろう。「例えば狭小地なら坪庭を設けて、風の庭とすれば、夏を涼しく過ごせます。南風が吹く土地では南側に常緑樹を植えれば、天然のクーラー効果を期待できるでしょう」

その土地に合った家は、その土地の風景となり街となる

土地の風土に根ざした住宅は、自然と一体となった景観をもたらす。ひいては美しい街並み形成につながるという。「野に出てくる家が並ぶことで、街並みが変わります。ブロック塀ではなく土境垣にすれば夏の暑さが和らぎ、植物や花を愛でることで隣近所との会話や「ムネニテイが

生み出されるでしょう」

その土地に合った家は、その土地の風景となり、よりよい生活や暮らしを支えていくのかもしれない。

「これから建てる人には、賃貸住宅に住んでいるときから、気持ちいい生活という視点を磨いてほしいですね。今より暮らしが豊かになる、どう暮らしていきたいか想像力を膨らませることが大切です」

黒木 実さん
建築家

住立して30年超の01軒を巡る。住宅の内外の魅力を伝える。光や風、水などの自然の恵みを活かす。自然素材がもたらす心地よさや、住む場所がもたらす生活の豊かさを伝える。子育て世代のニーズを踏まえた設計や、お洒落なインテリアを提案する。

今回紹介する3軒

CASE 1
神奈川県三浦市



海と緑を目前に、四季の変化を感じる

CASE 2
神奈川県相模原市



中庭の木を利用して採光を巧みに採る



保つ



入る雄木材の木々の色で四季の移ろいを感じる。「秋は紅葉がきれい、
り声がBGM。私はこのキッチンからの風景がとても好き」と妻

緑の色づく春から始まるデッキパーティー。
晴れた日は2階で、雨の日は1階で



と海が見え、デッキにも出られる。冬は落葉し
海がよく見える



玄関横に
-を沿びる



床とデッキには、調湿力の高い国産のカラムタを使用。日差しとむく
の床が冬の履物器具。「冬の海風も暖かいですよ」

「自分が見つけた家という実感が欲
しかったから」と壁の珪藻土はSさ
A夫妻が選んだのだとか



春夏秋冬
快適な家
G.A.S.E

デッキから望む海と山が 四季の変化を感じさせる

神奈川県三浦市 S邸

春夏秋冬 快適な工夫がいっぱい!

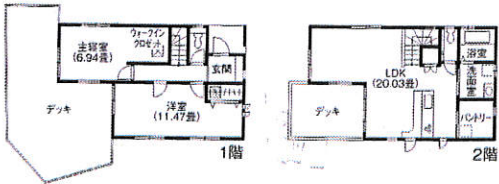
こんな感じでやります!

write time & place



デッキは第二のリビング

がらデッキでビール。春から秋に
、友人とデッキでバーベキュー。「そ
、何のためのデッキなのか! です
。1階と2階の両方にある広いデ
ッキ第二のリビング。



[DATA]

- 家族構成 夫(41歳) 妻(38歳)
- 敷地面積 186.80㎡ □延床面積 99.00㎡ 1階面積 48.00㎡ 2階面積 51.00㎡
- 本体工事費 1770万円 □工法・構造 木造軸組工法・2階建て
- 設計・施工 中尾建築工房

強い海風、塩害……。三浦半島の
環境に即した工夫も充実

海岸沿いの幹線道路から路地に入り、ゆ
るやかな坂を上った高台の一角に、Sさん
の家はある。

塩害対策にもなるというガルバリウム鋼
板で覆われたシルバーの外壁は、一見都会
的な雰囲気を感じているが、2階のリビ
ングは南国のリゾートホテルの部屋の様
。この家の第二のリビングでもあるデッキの
向こうには、雄木林の緑や三浦の海が広が
っている。部屋の中は、バンブーのソファ
とシーリングファン、むくみの床と合板の天
井が南国ムードを演出。何より、リビング
に吹き込む海風が気持ちいい。デッキに立
っていると、海も山も有する三浦の自然に
まるごと包まれているよう。

「夏の海は太陽が照りつけキラキラ輝くし、
エメラルドグリーン色になる冬の海は一年
でいちばんきれい。ここでは、海の色で季
節を感じる事ができるんです」

この家にはエアコンがない。夏は海風と
シーリングファンで十分涼しく、冬はむく
の床が暖かいのだとか。リビングの壁は湿
度調節機能をもつ珪藻土。窓ガラスは断熱
効果の高い複層ガラス。これにより三浦半
島特有の、海から吹き上がる強風を遮断し
ている。このエリアの自然環境に即した工
夫を施すことによって、エアコンいらずの、
まさに南国のリゾート地のような家ができ
あがった。「海が見える広いデッキのある家、
ハワイのコンドミニアムのような家を見て
たかった」というSさんの夢は、この家に
すべて詰まっていた。